

特集：入学

夢中になれるものを見つけよう

千葉 智樹（筑波大学 生命環境科学研究科）

皆さん、生物学類へご入学おめでとうございます。

筑波における生活に少しずつ慣れて来た頃ではないかと思えます。さて、生物学オリエンテーションで、学類長はじめ多くの教官からたくさんの指導や激励の言葉がありました。どれも大事なメッセージだったと思います。期待に満ちあふれて入学してきた皆さんには、どの言葉も強く印象に残ったのではないかと思います。一方、たくさんありすぎて忘れてしまった人も少なくないのではないかと思います。かく言う私もオリエンテーション後半では頭が飽和してしまいましたので、後者のクチでした。しかし初心忘れるべからず。入学後の生活が落ち着いたら、少しは思い出して着実に前進して欲しいと思います。また大学は学業だけでなく様々な課外活動の場も提供しています。思い返すと、私も学業よりも課外活動の方に思い出が多いように思います。力の配分は人それぞれと思いますが、私たち教官一同はより良い研究教育環境の整備に努めていますので、ぜひ学業にのめり込んでもらえたらと思います。英国短期留学制度もその一環ですのでぜひ海外に出て力試しして欲しいと思います。いろいろな価値観の人に出会うと人生観も変わると思います。

さて今年度から理数系マインド応援プロジェクトが試行されます。これは基礎教育の早い段階から最先端の研究に触れてもらおうという企画です。誤解を恐れずというならば研究は未解明の問題に取り組む高級な「遊び」とも言えます。既に答えのわかっていることを扱うことはまずあり得ません（むしろ大概の研究者は答えの解っていないことへの挑戦を生き甲斐としています）。そのため、何がどこまで明らかになっているのか、そして何が明らかでないかを認識することが大事となります。しかしこれにはまず自ら疑問を持つ事、何かに興味を持つ事が必要です。子供の頃「なぜなぜ」と際限なく親に質問をぶつけて困らせた経験のある人は多いと思いますが、そのような好奇心をぜひ発揮して欲し

いと思います。何かに興味を持って自ら学習するここで最初に役立つのが教科書です。あるいは最近ではインターネットにおける検索エンジンがお手軽かも知れませんが、しかし、より基礎的な事となるとやはり教科書に辿り着きます。そうなると分厚くて覚えるのが大変だな～と思っていた教科書が単なる基礎知識だけでなく問題解決のために有用な情報ばかりであることに気づきます。そしてしばらくすると、教科書の知識だけでは足りなくなってきた、最新の論文を調べるようになります。ここでいよいよ自分の知りたいことがどこまで明らかになっていて、そして何が明らかとなっていないかがより明確になってきます。しかし、何が明らかとなっているか、またはいないかを認識するには「問題発見能力」が重要となりますが、論文をクリティカルシンキングしないとはいけません。鵜呑みではいけません。論文では様々な角度から検証を行って総合的に結論を導きだしますのでこのような間違いはありませんが、先端分野となると問題意識があっても検証の方法がなかったりします。それゆえ論文で何を証明したのかについて常に批判的な目で読むことが大事になります。実際、教科書に記載されていた事が間違いであったということは全くないわけではありません。これから英語論文を読む事が多くなると思いますが、そのような訓練もして見て下さい。

さて、私は2年前までは研究所に勤めていましたので、大学教官としてはフレッシュマンです。その点ではまだ慣れていない点が多々あります。ただ、皆さんが筑波における新たな生活や学業その他の活動に対して大きな可能性を感じているように、私も同じような気持ちです。そして今年、クラス担任を初めて担当しますが、皆さんがどのように成長するか楽しみにしていると同時に、私自身も成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

Contributed by Tomoki Chiba, Received May 24, 2007.